

第1学年 生き方「いじめを許さない学級」

1 人権教育として育てたい三つの力

認識力	自己啓発力	行動力
◎社会の中のいじめを引き起こす差別や偏見を見抜く力 ◎人権課題について正しく理解する力	◎自分自身がいじめのない社会を実現するための当事者であると自覚し、先入観や偏見を改めようとする力	◎様々な立場の人々と共に、互いに尊重し合い、いじめのない社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとする力

2 総合的な学習の時間としての単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
いじめを引き起こす差別や偏見の存在に気づき、互いの考え方の違いを認め、互いに尊重し合い、主体的に対等に関わっていくことがいじめのない社会の実現につながることを理解することができる。	調べ学習や仲間との語りを通して、自分の中にも差別する弱い心があることに気づき、いじめのない社会を実現するために自分たちがどのように行動するとよいかを多面的・多角的に考察することができる。	自分の心の弱さを乗り越えながら、互いの考え方を尊重し合い、いじめのない社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとしている。

3 総合的な学習の時間としての単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①いじめ問題について、差別や偏見があることを理解している。 ②いじめを引き起こす差別や偏見の現状について、タブレット端末を用いながら、目的に応じて情報を適切に収集している。 ③いじめ問題と自分との関わりについて考え続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	①いじめ問題と向き合いながら、課題解決への見通しをもっている。 ②いじめ問題の正しい理解に必要な情報を、立場に応じて適切に収集している。 ③差別や偏見を生み出しているのは人間の心の弱さや社会構造であることを、現実と理想の対比から考察している。 ④心の弱さを乗り越えようとしている自分を踏まえて、相手意識や目的意識に応じて、分かりやすく表現している。	①異なる仲間の意見を受け入れながら、自分自身の心の弱さを見つめ直している。 ②過去の経験や自分とは異なる仲間の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自分の生き方を見つめ直し、いじめ問題の解決に進んで取り組もうとしている。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物 ★葛藤を生み出す手立て ◎語らいを生み出す手立て	知 技	思 判 表	主 体
1	いじめの現場には様々な立場（加害者や被害者、観衆、傍観者など）があることが分かる。そして、単元の学習の見通しをもつことができる。（認識力）	①写真「休み時間の出来事」を見て、学習の見通しをもつ。【全体】 課題：休み時間の出来事での様々な立場の人の気持ちを考えよう ②写真の吹き出しに、様々な立場の人の言葉や気持ちを考えて書き込む。【個人】 ③書き込んだ内容を交流し、それぞれの立場の人がどのような気持ちをもっているのかを考える。【グループ】 ④各グループのホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑤自分がこれを目撃したらどんな気持ちになるかを考える。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・道徳「いじめに当たるのはどれだろう」の内容を想起させる。 ・いじめの構造には、加害者、被害者、観衆、傍観者が存在していることを確認する。 ・③では、相手の嫌な気持ちに気付いていない加害者、笑っているが実は傷ついている被害者、周りと一緒に笑う観衆、許されない行為だと気付きながら何もできない傍観者などの気持ちを確認する。 ・③では、「なぜ、そう考えたのか。」と問い、思考の根拠を確かめる。 ・⑤では、自分のことではないが嫌な気持ちになり、許されない行為だと気付きながらも何もできない自分がいるかもしれないことに気付かせる。 ○写真「休み時間の出来事」、ワークシート、ホワイトボード		①	
2	いじめが広がる原因が、それに同調する弱い心にあることが分かり、自分の心の中のそうした気持ちと向き合うことができる。（認識力）	①写真「休み時間の出来事」を再度見て、いじめが広がる原因を考える。【全体】 課題：いじめはどうして広がるのだろうか ②松竹景虎さんの人権作文「空気」の範読を聞き、感想を伝え合う。【全体】 ③NHK for school「いじめの”空気”って？」を視聴して、感想を伝え合う。【全体】 ④いじめの「空気」がなぜ広がるのかを考える。【グループ】 ⑤各グループのホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	○資料「松竹景虎さんの人権作文『空気』」、ワークシート、ホワイトボード ・④では、「一度生まれてしまった空気を取り除くことはできるのか。」と問い、いじめの空気を発生させないことが大切であることに気付かせる。 ・④では、「今までにあなたも同調してしまったことはないか。」と問い、普段の日常生活の中でも起きていること、他人事ではないことに気付かせる。そして、同調して動いてしまった自分の心の弱さを語らせる。その中で、「その判断はそれでよいのか。」と問い、判断について吟味させたり、「どうすれば、うまくいったか。」と問い、結果について吟味させたりする。心の弱さは誰もがもつが、乗り越えることができることに気付かせる。		① ②	
3	いじめを止められない原因について考えることを通して、いじめの被害者の家族、傍観者としていじめを止めることができずに後悔している辛い気持ちに気づき、いじめを止められない心の弱さ何かが考えられることができる。（自己啓発力）	①映像資料「僕はなぜ止められなかったのか」の資料名について考えながら、学習の見通しをもつ。【全体】 課題：いじめを止められない原因は何だろう ②映像資料「僕はなぜ止められなかったのか」を視聴し、小島さんの気持ちを考えワークシートに記入する。【個人】 ★「小島さんが、仲良しの篠原さんがいじめられていいるのを止めることができなかったのはどうしてだろうか。」 ◎「小島さんは、そんな自分のことをどう思っていたのだろうか。」 ③本時の感想を書く。【個人】	・視聴する中で、被害者の篠原さんとその家族、傍観者の小島さん、加害者などの登場人物を確認し、関係性を把握する。 ★②では、小島さんが仲良しの篠原さんのいじめを止めることができなかった理由を考えさせることで、いじめを止められない心の弱さに共感させる。そして、自分の心の中にもある弱さに気付かせ、葛藤を生み出す。また、小島さんの自分に対する思いを考えさせることで、小島さんの苦しみに共感させ、いじめに対する嫌悪感を強くさせる。 ○映像資料「僕はなぜ止められなかったのか」、ワークシート		① ②	
4	小島さんがいじめを止められずに後悔する気持ちを考えることを通して、いじめを止めることは簡単なことではないが、いじめを許したくないという気持ちをもつことができる。（自己啓発力）	①映像資料「僕はなぜ止められなかったのか」や前時のワークシートから、いじめを止められない原因について考えることを確認する。【全体】 課題：いじめを止められなかった小島さんの気持ちを考えよう ②小島さんが、仲良しの篠原さんがいじめられているのを止めることができなかった理由を考え、発表する。【個人】⇒【全体】 ③小島さんが自分のことをどう思っているのかを考え、発表する。【個人】⇒【全体】 ④自分が小島さんの立場だったらどうしていたのか、その考えをプリントにまとめ、交流する。【個人】⇒【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】	・映像資料を2分26秒まで流し、内容を想起させる。 ・小島さんは、加害者ではないのに今なお苦しんでいることから、いじめが被害者だけでなく、その周囲の多くの人をいつまでも辛い気持ちにさせることに気付かせる。 ★小島さんの後悔の気持ちの中にある、「こうするべきだった。」「こうしたかった。」という理想に対し、止められなかった気持ちの中にある、弱い自分がある現実との対比の中で、葛藤を生み出す。 ◎仲間の意見を聞くことを通して、自分も弱さを乗り越えていきたいという思いを強くさせる。そして、自分の思いを伝えたいという気持ちから語らいを生み出す。 ★問題を自分のことに置き換えることにより、実生活をもつめさせ、さらに葛藤を強くさせる。		③ ③ ①	

5	事例をもとに、いじめを起こさないために傍観者である自分にできることを考え、周りの仲間を巻き込むことが大切であることに気づき、いじめを起こさないための具体的な方法を考えることができる。(行動力)	①前時の学習から、学習の見通しをもつ。【全体】 <u>課題：いじめを止めるために、自分には何ができるだろうか</u> ②映像資料「いじめと戦おう」(前半)を視聴する。【全体】 ③傍観者である自分にできることをワークシートに記入する。【個人】 ④記入した内容を交流する。【グループ】 ⑤ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ★「一番苦しんでいるのは誰なのか。」 ⑥映像資料の後半を視聴する。【全体】 ◎自分に何ができるのかをもう一度考え、交流する。 ⑦本時の感想を書く。【個人】	・前時までの感想を取り上げ、一連の学習を振り返る。 ・傍観者の視点から自分にできることを考えるよう促す。 ・③では、今までの学習や経験と関連付けて考えている生徒を価値付ける。 ・⑤では、「どうしてそう考えたのか。」と問い、考えの根底にあるものを意識させる。 ・⑤では、「今の意見について、あなたは思うか。」と問い、全員を巻き込みながら交流できるようにする。 ・⑥では、自分たちの考えと比べながら視聴するよう促す。 視聴後、「周りの人をどのように巻き込んでいけばよいか。」と問うことで、具体性のある方法を確認する。 ○映像資料「いじめと戦おう」、ワークシート、ホワイトボード	③	③	①
6	いじめを許さない学級にするために、自分にできることを考えることができる。いじめやいじめにつながる言動を絶対になくしていきたいという強い思いをもつことができる。(行動力)	①今までの学習を振り返る。【全体】 <u>課題：この学級でいじめや悲しい思いをする人が生まれないようにするために自分にできることを考えよう</u> ②課題に対する自分の考えをもつ。【個人】 ③記入した内容を交流する。【グループ】 ④ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ⑤交流した内容をもとに、自分ができることについて考える。【個人】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・①では、前時までの学習を振り返りながら、いじめに対する許さない思いを共有し、本時の課題につなげる。 ・②では、前時の映像資料の内容を思い出しながら、自分にできることについて考えさせる。 ・③では、それぞれにできることを交流する中で、仲間の考えの中から自分にもできないかを考えさせる。 ・④では、全体交流をすることを通して、学級として大切にすることを確認していくことで、いじめを許さない学級の雰囲気をつくる。	③		②
7	これまでの学習を振り返りながら作文を書く活動を通して、いじめを絶対に許してはいけないうちや、自分を大切にしようとする気持ちを仲間に伝えることができる。(行動力)	①今までの学習から、本時の見通しをもつ。【全体】 <u>課題：今までの学習を振り返りながら、自分の思いや考えを作文にまとめよう</u> ②作文用紙に自分の思いや考えを書く。【個人】 ③発表会に向けて練習する。【個人】	・これまでの学習で学んだことを振り返り、自分の心に向き合い、どのような考えに至ったのかを書くよう指導する。 ○作文用紙		④	③
8		<u>課題：自分の思いや考えを仲間に伝えよう</u> ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③感想の交流をする。【全体】 ④学習のまとめをする。【全体】	・それぞれの発表の後には、感想を交流し、互いの思いを大切にする場を設ける。 ・心の変容があったりいじめに対する強い気持ちを抱いていたりする生徒を抽出し、その気持ちを学級全体で共有する。 ○感想用紙	④		③

5 本時について

【本時のねらい】小島さんがいじめを止められずに後悔する気持ちを考えることを通して、いじめを止めることは簡単なことではないが、いじめを許したくないという気持ちをもつことができる。

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ・指導のポイント ★葛藤を生み出す指導 ◆学びを深める技 ●語らいを生み出す指導
導入	1 映像資料「僕はなぜ止められなかったのか」の一部を視聴して前回の内容を思い出す。前回記入したワークシートをもとに、いじめを止められない原因について考えることを確認する。【全体】 いじめを止められなかった小島さんの気持ちを考えよう	・映像資料を最初から2分26秒まで流し、内容を想起させる。 ・被害者の篠原真矢さんとその家族、傍観者の小島萩司さんなどの登場人物を確認する。
展開	2 プリントに考えを整理し、交流する。【個人】⇒【全体】 「小島さんが、仲良しの篠原さんがいじめられているのを止めることができなかったのはどうしてだろうか。」 ・篠原さんも楽しんでいるように見えたから、そこまで嫌がっていることが分からなかったから。 ・止めることで自分がいじめられるようになることが怖かったから。 ・相手の人数が多くて、自分ではどうにもできないと思っていたから。 「小島さんは、そんな自分のことをどう思っているのだろうか。」 ・なぜ止めることができなかったのだろうか。こんなことになってしまったのは、自分のせいだ。 ・あのとき、篠原さんのメッセージをすぐに受け止めて、話を聞いてあげればよかった。 ・篠原さんにも、家族の人にも申し訳ないことをしてしまった。 ・亡くなってしまった篠原さんは、どんなことをしても元に戻ることはない。この先自分はどうか償っていけばよいのだろうか。 3 自分が小島さんの立場だったらどうしていたのか、その考えをプリントにまとめ、交流する。【個人】⇒【全体】 ・いじめを許したくない気持ちはすごくあるけれど、今の自分は、小島さんの立場になったら、止めようとする事で自分がやられてしまうかもしれない。そう思うと、不安が大きくて止められないかもしれない。悩む。 ・小島さんは、いじめを止められなかったことをいつまでも後悔していて苦しんでいる。こんな気持ちがいつまでも続くのは耐えられないから止めたい。 ・いじめられた人が命を落とすことは絶対にあってはならない。いじめを見ていた人も、家族や周りの人もずっと辛い思いになる。こんなことは絶対に許せないから止める。 ・先生や周りの大人に相談して助けを求める。	・小島さんは、加害者ではないのに今なお苦しんでいることから、いじめが被害者だけでなく、その周囲の多くの人をいつまでも辛い気持ちにさせることに気付かせる。 (補助発問)「小島さんはいじめを止めようと思わなかったのか。」 ★葛藤を生み出す指導 小島さんの後悔の気持ちの中にある、「こうするべきだった。」「こうしたかった。」という理想に対し、止められなかった気持ちの中にある、弱い自分がある現実との対比の中で、葛藤を生み出す。 (補助発問)「この苦しさはずっと続くと思うことについてどう思うか。」 ●語らいを生み出す指導 仲間の意見を聞くことを通して、自分も弱さを乗り越えていきたいという思いを強くさせる。そして、自分の思いを伝えたいという気持ちから語らいを生み出す。 ★この問題を自分のことに置き換えることにより、実生活をみつめさせ、さらに葛藤を強くさせる。 ◆全体交流の中で意図的に指名し、切り返し発問をすることにより、自分のことをより深くみつめさせていく。また、立場の違う仲間の意見を聞くことを通して、各々の考えを深めさせる。 (補助発問) 「(Aの生徒に)自分がその現場にいたら、声を上げて止めることはできたろうか。」 「今、この教室の中でいじめが起こったら、今の自分で止めることができるか。」 「(B・Cの生徒に)小島さんのような苦しみはずっと続くことに耐えられるか。」 「このままいじめが広がってもよいのか。」
終末	4 本時の感想を書く。【個人】 いじめを止めようとしたら自分がやられるかもしれないという怖さから、止めるのは簡単ではないと思った。でも、いじめは人の命を奪うことにつながることもある。そして、被害者だけでなく、その家族や友達を含めた周りの人も、ずっとつらい思いにさせてしまう。絶対にいじめは許してはいけない。怖いけれど、自分は勇気を出していじめを止めたり、被害者に寄り添ったりする人になりたい。	・振り返りの中で、自分の立場(A:止める B:迷う C:止められない)を明確にすることで、各自が授業前後の自分の変容に気付くようにさせる。 【評価規準】(思考・判断・表現) いじめを止めることは簡単なことではないが、いじめを許したくないという気持ちをもつことができる。